

## 利用申込について

当園ホームページ「学校行事での利用」の中の「ご利用時の注意とお願い」「引率の先生方へのお願い」を必ずお読みいただいた上で「利用願（申請フォーム）」に必要事項を入力し、お申し込みください。

※引率の先生の入園料について 高知県内… 減免あり / 高知県外… 有料

**申込先** ホームページ URL  
[www.makino.or.jp](http://www.makino.or.jp)



QRコードからも  
ご覧いただけます。

- 来園予定日の1ヶ月前までにお申し込みください。
- 植物園のイベント開催時、また繁忙期においては学習プログラムの受け入れができない場合があります。
- 学習プログラムは令和4年4月現在のものです。今後、内容を変更する可能性がありますので、あらかじめご了承ください。

**問い合わせ先** 教育普及推進課 学習プログラム担当 Tel : 088-882-2802 / Fax : 088-882-8635

## Q&A

### Q 雨天でも実施可能なプログラムはありますか？

内面の学習プログラムで **屋内** のアイコンがついているものについては、雨にぬれることなく実施できます。また、牧野富太郎記念館 展示館には、牧野博士の生涯と業績を紹介した常設展示、220 インチの大画面で牧野植物園オリジナル 4K 映像作品を上映している展示館シアターなどがあり、雨天時でも安心して見学、鑑賞していただけます。

### Q 園内で飲食可能な場所はどこですか？

こんこん山広場、ふむふむ広場、北園 芝生広場、南園 少年広場、展示館 階段広場をご利用ください。屋根があるのは階段広場のみになりますので、雨天時は混雑する場合があります。お食事後は速やかに移動していただくなど、ご協力をお願いします。※そのほかの場所での飲食はご遠慮ください。

### Q 学習用タブレットを持参した場合、どんなことができますか？

植物園の見どころや牧野博士ゆかりの植物、常設展示などの解説を掲載した当園のデジタルガイド「まきの QR ガイド」をご利用いただけます。QRコードを読み取るだけで、興味、関心のある植物について詳しく知ることができると同時に、それぞれの解説は園内マップと連動しているため、現在地を確認しながら、限られた滞在時間の中でも効率的に園内を散策することができます。



#### 自動車の場合

- 高知自動車道「高知IC」から一般道で約20分
- はりまや橋から約20分
- 高知龍馬空港から東部自動車道経由で約25分

#### 飛行機の場合

- 羽田 - 高知約1時間10分
- 大阪（伊丹）から約45分
- 名古屋（小牧）から約1時間
- 成田から約1時間10分

#### JRの場合

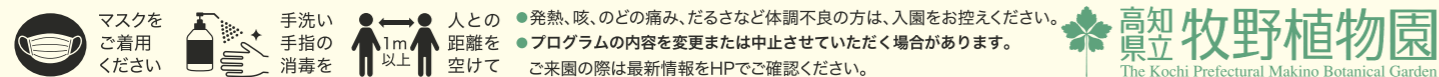
- 岡山 - 高知「特急南風」（約1時間に1便）で約2時間30分
- 新大阪から約3時間30分
- 高松から約2時間30分
- 松山から約4時間
- 徳島から約3時間

#### 観光周遊バス「MY遊バス」のご案内

- JR高知駅から約30分
- 運行について / とさでん交通（株）TEL 088-833-7171
- 乗車券について / （公財）高知県観光コンベンション協会 TEL 088-823-1434

【開園時間】9:00~17:00 【休園日】年末年始（12/27~1/1）、メンテナンス休園日（6/27、9/26、11/28、2023/1/30）【入園料】一般730円（高校生以下無料）、団体630円（20名以上）、年間入園券2,930円（1年間有効のフリーパス）【駐車場情報】駐車場無料 ○2022年度は新研究棟（南園）および駐車場工事のため、駐車台数が大幅減となります。特にバスについては駐車スペースがなく、一旦下山をしていただく場合もございますので、あらかじめご了承ください。

○〒781-8125 高知市五台山4200-6 ☎088-882-2601 🌐www.makino.or.jp



# 高知県立牧野植物園 学習プログラムのご案内



冬芽をみてみよう



探検！ふむふむピンゴ



空とぶタネ

牧野植物園では、来園された学校に対して、教育普及を目的とした学習プログラムを提供しています。本物の生きた植物を題材とする植物園ならではの内容は、能動的に自然とふれあい、得られる気づきや発見を通して、知識や理解を深めることができます。

## 園内マップ



- 化粧室
- 飲食可
- 飲食可(雨天時)
- 空とぶタネ
- 探検! ふむふむビンゴ
- 冬芽をみてみよう
- シアターで学ぼう
- 木と私たちの暮らし
- フィールドクイズ (北園～南園が対象)

## 主な施設



**A** ふむふむ広場  
五感で植物に親しみながら楽しく学ぶことができる体験型広場。



**B** 階段広場  
雨の日の活動や昼食場所に利用できる半屋外の多目的広場。



**C** 展示館シアター  
高精細な植物園オリジナル作品をご覧いただける4Kシアター。



**D** 展示館 常設展示室  
牧野博士の生涯や業績のほか、植物のつくりや動きについても紹介している展示室。



**E** こんこん山広場  
眺望が自慢の開放感あふれる広場。昼食場所にもおすすめ。



**F** 南園  
50周年記念庭園をはじめ、温室、結綱山(けつもうざん)や混々山(こんこんやま)など、見どころがたくさん。

## 学習プログラム 時間・人数は目安です。調整、または複数のプログラムと組み合わせることも可能ですので、ご相談ください。

### 空とぶタネ



- 対象 : 小学生
- 人数 : 10~50名
- 時間 : 30分~1時間
- 場所 : 本館、ふむふむ広場
- 持ち物 : 油性サインペン

**ねらい**  
種子の模型をつくって実際に飛ばすことにより、その形態を知り、植物の生き残り戦略を体験しながら学びます。

**内容**  
自ら移動できない植物は、子孫を増やすため、さまざまな方法で種子を運びます。身近な植物から海外の植物まで、いろいろな形態の種子を見て、それぞれの仕組みや散布方法を学んだあと、「空とぶタネ」の模型をつくって実際に飛ばしてみましょう。

### 探検! ふむふむビンゴ



- 対象 : 小学生
- 人数 : 10~30名
- 時間 : 30分
- 場所 : ふむふむ広場
- 持ち物 : クリップボード、筆記用具

**ねらい**  
体験型園地「ふむふむ広場」を使って、能動的に植物とふれあい、発見や気づきを得る機会とします。

**内容**  
「ふむふむ広場」を探検しながら、ビンゴ形式のクイズに挑戦! 観察したり、触ったり、においをかいだり、五感を使って植物に親しみ、「ふむふむ」とうなずきながら、植物について楽しく学んでみませんか。

### 木と私たちの暮らし ~ムクロジ遊び~



- 対象 : 小学生~中学生
- 人数 : 10~30名
- 時間 : 1時間
- 場所 : 本館、ふむふむ広場
- 持ち物 : 油性サインペン

**ねらい**  
昔ながらの“遊び”を通して、身近な植物に親しみ、植物と暮らしのつながりを感じる機会とします。

**内容**  
ムクロジの果皮は水に浸すと泡立ち、かつては洗い物に利用したといわれています。黒くて硬い種子は、羽根つき遊びの羽根や数珠にも使われています。ムクロジの観察後、泡が出る不思議や、昔ながらの遊びを体験しながら、植物と私たちの暮らしの関わりについて学びます。

### シアターで学ぼう

- 人数 : 5名~応相談
- 時間 : 30分
- 場所 : 展示館シアター

**ねらい**  
映像作品を通して植物のしくみや牧野博士について学びます。

- 作品一覧**
- 「牧野富太郎が描く植物の巧みなしくみ」
  - 「マキノ博士の植物教室 ~1時間目 花と果実~」
  - 「牧野博士とめぐる植物園カレンダー」
  - 「高知自然紀行 ~“草木の精”を育んだ緑の風景~」

### 解説付きシアター鑑賞

対象 : 小学生(高学年)  
作品を鑑賞後、牧野博士の植物図や花と果実のしくみを3DCGを使用してじっくり観察します。対象作品 ①②

### シアター鑑賞と作品クイズ

対象 : 小学生(中学年~高学年)  
作品を鑑賞後、内容を振り返るクイズに挑戦! 対象作品 ①②③④

### フィールドクイズ



- 対象 : 小学生~中学生
- 人数 : 10~100名
- 時間 : 30分~1時間
- 場所 : 北園~南園
- 持ち物 : クリップボード、筆記用具

**ねらい**  
植物の名前や特徴、牧野博士を題材としたクイズを実施し、楽しみながら知識を獲得します。

**内容**  
クイズ用紙と園内地図を持ってスタート! 地図に示された番号の場所にある植物を観察したり、植物についているラベルを見て、クイズに答えます。制限時間内にいくつ解けるか挑戦してみましょう。

### 12月~2月限定 冬芽をみてみよう



- 対象 : 小学生(中学年~高学年)
- 人数 : 10~30名
- 時間 : 1時間
- 場所 : さくら・つつじ園、薬用植物区
- 持ち物 : クリップボード、スケッチ用の鉛筆

**ねらい**  
冬を乗り越えるための植物の工夫を、観察とスケッチを通して学びます。

**内容**  
木の枝についた冬を越すための小さな芽を冬芽といいます。綿毛に覆われているものや、重ね着をしているように見えるものなど、数種類の特徴的な冬芽の観察とスケッチを行い、植物はどのようにして冬を過ごしているのか、その工夫に迫ります。